



東京の会通信

No.235

2011年11月1日号
(毎月1回1日発行)

発行：公的骨髓バンクを
支援する東京の会
〒160-0005 東京都新宿区
愛住町23 Woody21-9F
TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

「いのちを想いあう」1000人が 感動の渦に包まれました！

9月25日に文京シビックホールにて、文京区と東京の会共催で、〈健康ぶんきょう21講演&対談〉「いのちを想いあう」〜つよくてあたたかくてやさしい日本へ〜と題し、鎌田實先生の講演と、鎌田先生、坂巻壽先生、大谷貴子さんによる対談のイベントが行なわれました。当日は来場のお客様が満席となり、併設のあやちゃん展とともに大盛況のうちに終えることが出来ました。企画から携わり、ご自身も出演された大谷貴子さんから笑いと感動のリポートです。

昨年(2010年)の5月5日にNHKラジオ「いのちの対話」に出演させていただいたことがきっかけで、鎌田實先生と知り合うことができました。そして、その日、鎌田先生が駒込病院副院長の坂巻壽先生と同級生だということを知ったのです。坂巻先生は血液内科医で、骨髓バンクの大応援団です。このご縁は、ただものではない！と、その日から1年4ヶ月。準備に準備を重ねて9月25日がやってきました。

振り返ってみれば1年4ヶ月の間、様々な方にお手伝いをいただきました。1000人規模の会場を探すと、市内では文京区のシビックホールが第一候補。人気のあるホールを優先的に借りしようとするとう京区在住の方の予約が良いと知り、文京区在住の方を思い描く……。坂巻先生が文京区在住でした！結局、坂巻先生に文京区役所の区長さんをご紹介いただき、文京区主催のイベントに大昇格。

イベント全体にかかる経費のうち、ポスターやチラ

シ・HP作成などは文京区さんのご尽力。そして、会場費など東京の会で負担する経費は、企業や個人の方々からのご寄付でまかなうことができ、本当にありがたかったです。そして広報。メディアの方々や文京区報での告知……。1年4ヶ月は、あっという間でした。

そんな中、3月には大震災もあり、しばらくは全てがストップしてしまいました。

そして、ずっと懸案事項だったイベントテーマは、NHKラジオ・ラジオビタミン(平日午前8時30分より生放送)の案内役でおなじみの村上信夫アナウンサーが、震災も意識して「いのちを想いあう」と発案してくださいました。

さて、ようやく迎えた9月25日は、ありがたいことにお天気に恵まれました。8時半に皆さんに集合いただき、まずは専門業者さんが、あやちゃん展の案内を



あやちゃん展の素晴らしい案内ディスプレイ

日本骨髓バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成23年9月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	392,092	54,466	33,936
9月登録分	3,837	244	205
9月抹消数	1,049	120	—
実質登録増	2,788	124	—

患者とドナー登録・適合状況(9月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	514,363人
ドナー登録抹消者数(累計)	122,271人
有効二次検査済ドナー数	391,798人(9月2,794人増)
二次検査適合ドナー数(累計)	253,326人
実質登録患者実数(現在)	2,780人(国内1,532人)
HLA適合患者数(累計)	27,581人(患者累計数の81.3%)
非血縁移植実施数	13,397例(9月実施118例)

窓ガラスに装飾して下さっているのを鑑賞。あまりの素晴らしいできに感動です。ディスプレイ原案は東京の会・中谷哲郎さんと伺い多才に敬服。案内ディスプレイが素晴らしいと、通る人の目を惹きます。それは必ずやたくさんのお客様が、今日の鎌田實先生講演会&あやちゃん展を見に来てくださると確信できた一瞬でした。

そして8時半という早朝にもかかわらず、東京の会のボランティアさんだけではなく、知らない顔、顔、顔。しかも、パリッとスーツ姿の方々。なんと血液疾患の薬を扱う製薬会社の方々でした。さすが！と感心と感謝。皆さんてきばきと動いてくださるので本当に助かりました。

一方私は……と言えば、楽屋で荷物番です。実行委員長である若木換さんが、楽屋にあるロッカーに多額の会場費を現金のまま入れていたからです。もちろん、コインロッカーですから鍵はついていますが、私は楽屋ごと門番をすることを指示されます。本番前の緊張と金庫番の緊張とで、まさしく楽屋でじっとしていました。

鎌田先生もご無事にご到着。さあ、いよいよ本番が始まります。お客様の入りも、最初はちょっと心配でした。しかしその心配もすぐに吹っ飛びます。鎌田先生のご講演があまりにも素晴らしく、どんどんどんどん惹き込まれていきました。震災の映像、チェルノブイリの映像、病気の方々への励ましの映像、若き日の髪の毛がありし日の鎌田先生の映像（これには失礼ながら大笑いさせていただきました）……等々の中に、何度も「骨髄バンク」という単語を挟んでくださるお気遣い。

講演が終われば、次はジョンチャヌさんのバイオリン演奏です。ジョンチャヌさんは、JR大久保駅でホームから転落した日本人を助けようと、自分も犠牲になってしまった韓国人の方を偲んで、大久保駅にて追悼演奏会を開催してこられた方です。その想いは震災の被災者の方へも及びます。演奏の合間に涙ながらにご自分の想いを語って下さり、演目と重なって聴いている私たちも涙がポロポロ出てきました。

その後はバイオリン演奏をバックに、鎌田先生の朗読の時間です。当初の予定では、坂巻先生との対談などすべてのプログラムを終えてから、最後の締めで朗

読の予定でした。しかし、朗読の内容～戦地で砲弾を浴びて脳死になった少年の心臓が、対戦国の心臓病の少女に提供されたというお話し～を、原稿なしで語ってくださることになったのです。内容を事前に聞いたジョンチャヌさんが、ピアノがあった方が良いと判断し、急遽プログラムを変えたのです。バイオリンとピアノで奏でるアメージンググレースの響き。涙なしに聴くことはできませんでした。

でも、ピアノの出し入れのお願いを文京区の担当さんに伝え忘れていた私のせいで、裏ではドタバタがあったと後に伺いました。本当にすみません。

それにしても、急遽プログラムを変更しても、ジョンチャヌさんと鎌田先生との息はぴったり。シ～ンとしたホールに感動のお話しが響きます。戦争の醜さ乗り越えた心臓移植。対戦国から提供された心臓は少女の中で生き続け、今、その少女・サマーちゃんは医師になるという夢を持っているそうです。戦地ゆえ、対戦国ゆえの葛藤よりも、人のいのちを思いやれる、脳死になった少年のお父様の優しさ。骨髄バンクも、いつもそのような、人を思いやる優しい気持ちの方々によって支えられていることを再認識するひとときでした。

そして最後は村上さんの絶妙な進行のもと、坂巻先生を中心とした対談が始まりました。村上さんは、その人が持つ本来の姿をいつの間にかキャッチし、引き出す天才です。「なぜ坂巻先生は、いわゆる“お医者さん然”としていないのか」「どうして全人的医療ができるのか」上手に上手にその根幹は何なのかを引き出していかれます。

坂巻先生は医学部生の時、ご両親を一度に交通事故で亡くされました。妹さんもいらっしゃる中、先生は自力で医学部をご卒業されます。悲しみの中でも前を向いて努力をされたのです。鎌田先生も血の繋がっていないご両親に育てられ、しかも先生のお言葉を借りるのなら、とても貧乏な中、自分を育ててくれたとのこと。先生とご家族が努力をされ、人のいのちを救うお仕事につかれたのです。

坂巻先生も鎌田先生も、とても優しいお医者様です。ありがたいことに私は、坂巻先生とは長いお付き合いをさせていただいており、どれだけお優しいかをよく知っています。様々な点から困難極める患者さんをお

願いしても、嫌な顔一つされないどころか、必ず「ご紹介いただき、ありがとうございます」とお礼をおっしゃい、こちらが恐縮してしまうことばかりです。

坂巻先生の最大の魅力を、村上さんがとても上手に引き出して下さり、坂巻先生の好感度アップのみならず、リニューアルした駒込病院の好感度も急上昇でした。放



左から 村上アナ、鎌田先生、坂巻先生、筆者

射線科の機器においては東大病院より性能の良いものを取り入れた、と坂巻先生がおしゃったとき、つい私は「文京区民がうらやましい～」と言ってしまいました。

最終的な来場者数は、ほぼ1000人と伺いました。鎌田先生、村上さんのご著書の売れ行きも上々。ジョンチャヌさんのCDの売れ行きも抜群。当日設けたチェルノブイリの子も達への募金も最高。あやちゃん展へも、翌日、翌々日ともたくさんの方にご入場いただいたとのこと。

1年4ヶ月に渡る企画と実行の陰には、本当に多くの方々のご尽力がありました。最高の会場と文京区の方々の緻密な計画、ご寄付、当日のボランティアの方々のご協力……数え上げたらキリがありません。そして何より、ご来場くださった1000人のお客さまにも感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に村上さんがおっしゃいました。「このメンバーで全国各地を巡って骨髄バンクを広げたいね」と。そんなことができれば最高です。



とても優しい二人のお医者様。鎌田實先生(左)と坂巻壽先生(右)

最後の最後になりましたが、日頃、東京の会の活動になかなか参加できない私ですが、そんな私を温かくご援助くださいました東京の会の方々に心から感謝を申し上げます。素晴らしい一日をありがとうございました！
(大谷 貴子)

今年の宿場祭りは少人数で頑張りました

9月25日は東京の会にとって、大切なイベントが重なった。

一つは文京シビックホールでの『いのちを想いあう』鎌田實先生の講演会、もう一つは、17年間も続けている『品川宿場祭り』の骨髄バンク支援バザーだ。思いは二つだが身体は一つ。会員を両方に分けて全力で活動した。

私は品川寺で、東京マリーナロータリークラブの皆さんのご協力をいただき、前日24日のバザー品の値付けから始めた。いつもお世話になっている毛塚さんは、長野県の松川まで出かけて、新鮮な野菜やおいしい果物を仕入れて来てくださる。その他にも石鹸やタオルなどたくさんの方のバザー品が集まり、毎年のことながら楽しく値付けをする。

いよいよ25日朝からブース作りが始まり、品物を並べ終えないうちにお客さまが集まり買われていく。ここしばらくは雨にたたられることが続いたが、天気も良く、出だしも好調だ。

江戸町人行列では、武士やお姫様など様々に扮装をこらした人たちが2キロの旧東海道を練り歩き、華や

かなパレードが続く。品川寺境内で火渡り荒行が行われる頃、宿場まつりは盛り上がり、人出は最高になる。

数年前まで世田谷ボロ市に参加していた頃には「おんな寅さん」と呼ばれていた私の妹も、声をあげて野菜を売りさばいていく。試食をしながらのリンゴや梨は好評で、野菜なども早々に完売して3時頃には終わることが出来た。

片づけ終了後は品川寺の御堂に座り、お蕎麦やオードブル、飲み物などを振舞われて、一日の疲れを癒すひとときだ。販売利益や募金は、後日東京マリーナロータリークラブから全額を寄付して頂き、財政厳しい東京の会の会計係としては心から感謝している。

毎年お会いするメンバーの皆さんとはすっかり顔なじみになり、和気あいあいと楽しい宿場まつりを行うことができた。残念だったのは、人手不足でパレードに参加できず、骨髄バンクを知ってもらうための、ギフトオブライフの配布ができなかったことだ。

是非また来年も続けていきたいと思う。

(大塚 礼子)

東京ドナー登録会予定(11月)

11/1 (火) 赤羽消防署 (北区)
11/4 (金) 上野消防署 (台東区)
11/4 (金) 上野精養軒 (台東区)
11/6 (日) 天理教本芝大教会 (港区)
11/6 (日) 国分寺まつり (国分寺市)
11/7 (月) 世田谷区民会館 (世田谷区)
11/10 (水) 八重洲ファーストフィナンシャルビル (中央区)
11/11 (金) 日大法学部 (千代田区)
11/13 (日) 板橋農業まつり (板橋区)

11/13 (日) 代々木公園 (渋谷区)
11/13 (日) OTAふれあいフェスタ2011 (大田区)
11/13 (日) 秋留台公園 産業祭り (あきる野市)
11/15 (火) 帝京大学医学部付属病院 (板橋区)
11/22 (火) 福生市役所 (福生市)
11/24 (木) エルソフィア (台東区)
11/25 (金) 中野区役所 (中野区)
11/27 (日) 高島平団地東武ストア前 (板橋区)
11/28 (月) 明治大学 (千代田区)

献血ルームのご協力に感謝！

有楽町献血ルームでの活動

10月2日、有楽町献血ルームでドナーリクルート活動を実施しました。当日のメンバーは7人。有楽町駅前での声かけは、秋田県PRイベントが実施されていて、すべてかき消されてしまいます。その中でも、一人でも多くの方に献血・ドナー登録をしていただけるよう声をかけました。

有楽町献血ルームの職員の皆さんは、非常に丁寧に声をかけており「献血にご協力をお願いします。(一礼)お時間に余裕がございましたら、ご協力をお願いします。(一礼)」と、一言一言の間に一礼をしてお願いをしています。おそらく地域性や協力いただける方の年齢層等で、そういった呼びかけが一番効果的なのだと思いますが、「ご協力いただけるなら、頭くらい何でも下げます」とすら感じるような熱心さには、ものすごく感動しました。私も少しでも多くの方にと熱意を込めて頭を下げました。

一方、ルーム内のメンバーは、今年度二回目、昨年からはじめてドナーリクルート活動としては三回目の場所ということもあり、だんだん声かけポイントのコツがつかめ、かなり手ごたえを感じていたようです。



献血ルームスタッフと東京の会メンバー

結果19名という、昨年からの活動の中で一番の好成績を収めることができました。やはり、熱意と継続が大事なのだと思います。これからより多くの方に理解していただけるよう、活動を継続していきます。

今年度献血ルームでの活動の半数を終えて

今年度都内献血ルームでの7回の活動も、半数を過ぎました。

現在までの中間結果は以下のとおりです。

場所	献血者数	ドナー登録者数
有楽町献血ルーム	204名	12名
新宿東口献血ルーム	199名	18名
献血ルームぶらっと(池袋)	115名	15名
ハチ公前献血ルーム	122名	11名
有楽町献血ルーム	203名	19名
合計	804名	75名

昨年度のドナー登録者数50名を突破し、順調に行けば100名にも到達しそうです。

また献血者数に占めるドナー登録者数の割合も増加させることができています。

昨年度と比較し、登録者数が増加している要因としては、以下のことが考えられます。

●参加するメンバーが増えた

昨年度は東京の会20周年ということもあり、さまざまなイベントを実施しました。その結果、メンバーを分散して活動せざるを得ない場合もありました。また、今年度から積極的に参加して説明員資格を新たに取ったメンバーもあり、説明員数も増えました。

●活動ルームを絞った

昨年の活動は20周年記念イベントの一環として、都内のルームを巡るということを意識していました。今年は昨年度好成绩だったルームや、日赤のルーム担当の方に各ルームの特色を伺い、それぞれ目的を持って

東京の会 「11月定例会」 のお知らせ

11月19日(土) 午後5時30分より
会場：全労済東京・レインボー会館3階会議室
※新宿駅下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
※西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署さくらや銀行の角入ってすぐ右側
※12月定例会予定・12月17日(土) 午後5時30分より
当日は終了後に大忘年会を予定しています。
定例会は 毎月第3土曜日午後5時30分 から開催しています。

12月会報発送 「おりおり」 のお知らせ

12月3日(土) 13時00分より
※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。
場所：品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8)
JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分
※今お読みになっている「東京の会通信」を約1000部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。
※1月「おりおり」予定・1月7日(土) 13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

活動ルームを絞りました。

●参加メンバーのドナーリクルートテクニックが向上した

東京では登録会の実施は主に財団担当者が実施しており、東京の会で主催する登録会はあまりないのが現状です。そのため初めのうちは、一部慣れていないところもありました。回を重ねるごとに、説明のタイミングやポイントなどがわかり、効果的な説明ができてつあります。

●献血ルームに慣れた

献血ルームの活動は昨年からはじめましたが、最初はルーム内の固有のオペレーションに戸惑うことも多く、うまく説明できずにいました。それが少しずつ慣れ、効果的にリクルートできるようになって来ました。

●献血ルームの職員が協力的

献血ルームの職員の方は、活動を開始する際にも好意的に受け入れてくれました。また、当日の活動でも体調等に配慮して下さいます。ただ、今年はそれ以上に、「骨髄バンクの説明を実施しています」と、東京の会活動用に掲示をして下さったり、「骨髄バンクの

ドナー登録を実施しています」と積極的に声をかけて下さったり、非常にご協力いただきました。このような友好的な関係がよい結果を生み出しているようです。

これに対し、現状の一番の課題は、定期的に開催できるほどのメンバーがいない、ということです。

週末の献血者が多いため、毎週末活動を実施すれば確実に成果を挙げられるはずです。ただ、毎週末活動できるほどのメンバーはまだ集まっていません。メンバーを増やす活動をもっと実施する必要があります。

将来的にはボランティアが活動しなくても、献血ルームの業務の一環として骨髄バンクドナーの募集やドナー登録の説明を行うことが理想です。受付で登録有無がわかるように献血カードに情報を紐付け、登録が無い方には説明を実施するようにすれば、一番効率的です。そうなることを目標として、また説明員常駐化に向けた活動の一步目として、引き続き東京の会では献血ルームの活動を継続していきます。

(保居 範昭)

フリマでバンクのPR 風評にも負けず新米は完売！

10月9日、小平の新東京自動車教習所のフリーマーケットの日は去年と違いきれいに晴れました。

東京の会は一昨年からはじめて2回目の参加です。今年はバザー品の他に、震災で津波の被害を受けた石巻から、私の弟の会社が復興に向けての思いをもって再参加しました。宮城のお米からは放射能漏れによるセシウムは検出されませんでした。しかし風評による宮城米離れの懸念を持ちながらも、東京の会の皆さんの協力で、獲れたての新米1kgを100個完売することが出来ました。

弟の会社の高橋さんは、津波で身内を11人も亡くして大変な状況の中、仕事に打ち込むことで頑張ってきました。元気いっぱい声を出して、持ってきた電気釜でご飯を炊いて海苔巻きを作っては、試食をお勧めし



宮城の新米100個完売しました！

て美味しいお米をアピールしました。東京の会の皆さんが協力してくれたことで新米が売れて本当に感謝していました。

お昼には中央の舞台上で骨髄バンクのアピールをさせて頂き、皆さんもひととき注目してくれて、二見さんとの掛け合いでの骨髄移植の話聞いて下さいました。高橋さんはそこでも被災者としての想いを皆さんに伝えていました。

彼女がこのような活動していく事で辛い経験から立ち直っていけるように見守りたいと願い、私にとっても弟にとっても非常に嬉しい一日になりました。ドナー登録説明会の方も、3人ほど来て下さって説明をさせて頂き、次の機会に登録してくれることになりました。

櫻井さんお世話になりました。

(竹崎 恵子)



舞台上でバンクのPR

編集者

雑記



▼9月25日文京区と共催した「いのちを想いあう〈健康ぶんきょう21講演&対談〉」は千人を超える申込者を得て、成功裏に終わることができました。主講演者の鎌田 實先生の巧みな語りと話題が聴衆に強い感銘と感動を与えてくれました。

▼筆者もスタッフの一員として先生の講演と朗読を拝聴しましたが、強く印象に残ったのは日本人が土俵を割っていないという言葉でした。日本人が他者を思いやる気持ちを失っていない、いざという時にはそれを行動できる人が沢山いるという意味です。チェコのチェリストの奏でるメロディーをバックに「雪とパイナップル」の話が語られました。

▼1986年4月26日チェルノブイリで原子力発電所の事故が起きました。1万メートル上空に吹き上げられた死の灰がそのとき吹いていた南風によって国境を越え、北側のウクライナやベラルーシに降り注ぎ、高濃度汚染地帯が広がったのです。死の灰の影響は5～6年経って子供たちに現われました。白血病や甲状腺がんが子供たちに増えたのです。

▼国の体制が壊れ、血液疾患の医療体制や設備が十分でなかったチェルノブイリ周辺諸国からの支援要請を受けて、鎌田先生たちは日本チェルノブイリ連帯基金という国際医療ボランティアの会を作って医療支援を行い、人材・医療機器・薬品の支援を行っていました。何人かの子供たちに骨髄移植も行なわれました。「雪とパイナップル」は、移植の甲斐なく天国に逝った14歳のベラルーシの少年にまつわるお話です。

▼移植後、重篤な口内炎に苦しみ食欲のない少年に、移植療法看護指導のため来ていた日本人看護師ヤヨイさんが、食事をいろいろ工夫していました。2月のある晩、少年に「何なら食べられる？」と尋ねたところ、少年はためらいながらも「パイナップル…」と答えました。

▼ベラルーシは北緯55度ぐらいに位置し、2月ごろには雪と氷に閉ざされ、夜には零下20℃以下にもなる酷

寒の土地です。ヤヨイさんは勤務を終えた夜になって、町に出てパイナップルを探して歩きました。経済が崩壊して貧しい状態にあった当時の冬のベラルーシに生のパイナップルは見つかりませんでした。でも、その噂は町中に広がりました。「日本人の看護師さんが寒い中を、子供の患者のためにパイナップルを探している」。

▼翌朝、奇跡が起きました。パイナップルの缶詰がヤヨイさんのもに届けられたのです。多分豊かな人が家族みんなで楽しもうと大切にしておいたものでしょう。鎌田先生が後に少年の家族を訪ねた時に母親が話してくれました。「マイナス二十度の雪の町を、パイナップルを探して歩いてくれた日本の女性のことを、わたしたち家族は一生忘れないでしょう。」

▼日本の病院なら、調理室に連絡すれば簡単に実現できることでしょう。当たり前に行えることができない環境の中で、患者のために職責を超えて努力された看護師さんの、普通の日本人の他者を思いやる行動が感動を呼んだのです。

▼今回の東日本大震災でも、多数の普通の人たちがボランティアとして駆けつけ、被災者を支援しました。被災地への支援活動は初期の段階を過ぎ、本腰をいれた支援が必要な時期を迎えています。多くの命が失われ、人々が避難のため故郷を離れた被災地では人材が不足し、社会生活サポートシステムが壊れてしまっているのではないかと懸念しています。行政システム、治安システム、医療システム、交通システム、住民の衣食住サポートシステムなどです。

▼今、この国に求められているのは、被災地ごとのニーズを具体的に把握し、そのニーズを満たす供給源とどのように結びつけるか、ニーズとサプライ両面からの情報の集約と実行プランをつくり、予算を裏づけて推進していくことではないでしょうか。被災地で必要とされる業務経験者を供給できる地域から集め、被災地へ送り、システムを回復させることが不可欠です。国や地方自治体に力が不足しているのであれば、野に沢山埋もれているであろう能力のある人材や被災地以外の地域の失業者を雇用し、復旧・復興の事に活用するために資金・資源・エネルギーを使って欲しいのです。

(k)

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2011.9.16～10.15)

清水 一夫さん 7,000円／向井 陽美さん 10,000円／辻 秋子さん 3,000円／広江 栄子さん 3,000円
高田 文子さん 1,000円／大里 八郎さん 3,000円／杉山 保廣さん 1,000円／熊谷 より子さん 3,000円
鈴木 修司さん 5,000円／森 佳美さん 5,000円／宮坂 祐輔さん 7,000円／迫田 八重子さん 3,000円
大澤 礼子さん 3,000円／八戸 信昭さん 2,000円／若林 秀子さん 10,000円／金子 美智代さん 10,000円
大谷 貴子さん 50,000円／坂巻 壽さん 50,000円／鳥羽 雅行さん 3,100円／堀 雅子さん 10,000円
宮本 絢子さん 5,000円／学校法人花田学園理事長 櫻井康治さん 10,000円／新宿西口陸会さん 10,000円
㈱さくら 津田昌克さん 30,000円／匿名 10,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。